

山田みやこの活動報告

令和元年11月12日(火)

民主市民クラブ会派視察 兵庫県教育委員会・南甲子園小学校

視察① 兵庫県教育委員会

《兵庫型教科担任制について》

対応者 義務教育課 村田 かおり課長

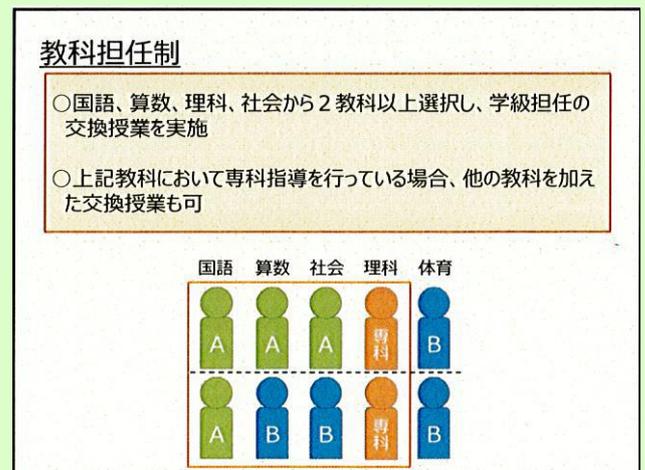
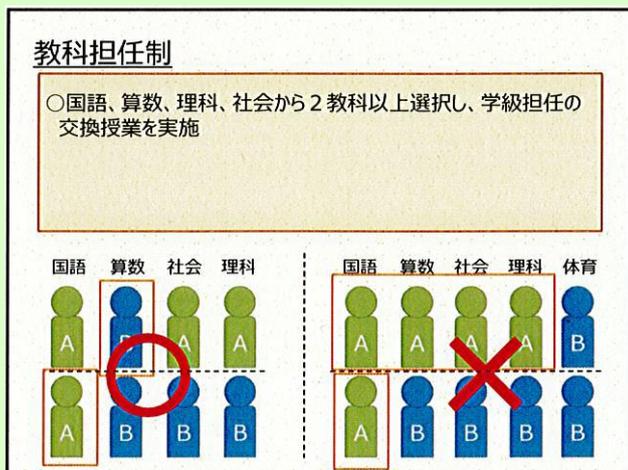
学事課 高崎 和則副課長 他4名

兵庫型教科担任制導入にあたって、中学校1年生での問題行動の増加(中1ギャップ)や学習内容の理解度の落差があったため、小学校高学年における指導の改善の必要性があった。

小中学校相互の連携のため、小学校高学年への教科担任制と、小中学校にまたがるカリキュラム編成をした。その結果小学校高学年において「教科担任制」と「少人数授業」を組み合わせた『兵庫型教科担任制』を確立した。

〈教科担任制〉

国語・算数・理科・社会から2教科以上選択し学級担任の交換授業を実施。



上記教科において専科指導を行っている場合他教科を加えた交換授業も可能。

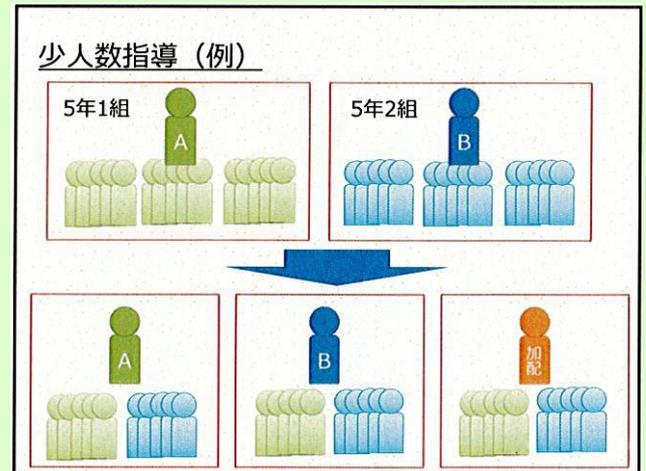
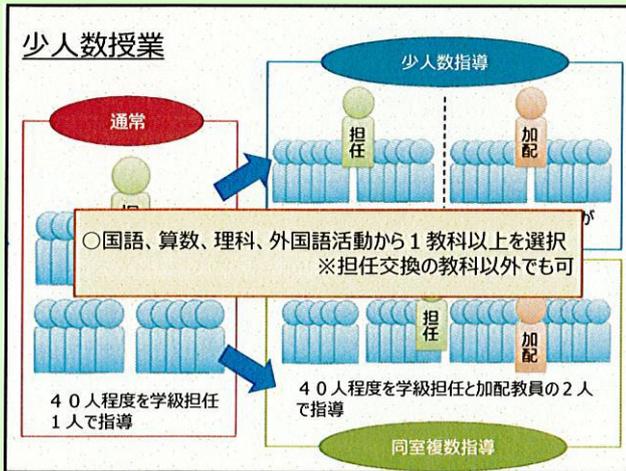
交換授業 (例)

	国	算	社	理	音	図	家	体	外
5年1組	A	A	A	B	専	A	A	B	A
5年2組	A	B	B	B	専	B	B	B	B

・A先生…5年2組の国語(6時間)
・B先生…5年1組の理科(3時間)+体育(3時間)
※音楽は専科の先生が指導

〈少人数授業〉

国語・算数・理科・外国語活動から1教科以上を選択。



《その結果》

・児童側

教えてもらう先生が変わって授業が楽しい。

担任の先生以外の先生に気軽に相談ができるので気持ちが楽になった。

・先生側

児童の変化に気が付きやすくなり問題の未然防止、早期対応ができる。

多くの教員が関わることで児童の良さを認めあうことが多くなった。

専門教科担当が多くなり専門性が発揮できる。

・学校側

発達や学びの連続性が確保できる。

時間数のバランス調整が難しい。



小・中学校の円滑な接続

※試行から現在まで約20年の月日が経過し、システムも定着化している。先生も児童も当たり前という感じだった。

本県においても学校規模にもよるが(1学年3～4クラスが適当)実施検討すべきである。

視察② 南甲子園小学校

《兵庫型教科担任制・少人数授業の授業見学》

築3年・オープンスペースの教室で授業を見学

5年1組 算数2クラスになり少人数授業

5年2組 外国語(専科)

5年3組 社会(4組担任による教科担任)

5年4組 理科(3組担任による教科担任)

6年1組 図工(専科)

6年2組 社会(3組担任による教科担任)

6年3組 理科(2組担任による教科担任)

6年4組 算数2クラスになり少人数授業

